



南相馬市【福島県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成30年3月 ■ 人口：54,714人 ■ 面積：399km²
■ 担当課：南相馬市教育委員会文化財課（平成30年3月現在）



東日本大震災、福島第一原子力発電所事故により多大な被害をうけた南相馬市において、多方面にわたり文化遺産を活用したまちづくりを推進することにより、歴史文化を活かした魅力的な「まち」として復興することを目的に策定した。当地方を代表する文化財である「相馬野馬追」のほか、災害や復興を示す文化遺産等を関連文化財群として設定し、市民にとってもわかりやすく、取り組みやすい方針を掲げた。

5 歴史文化を表す つのキーワード

歴史文化の体感、山・原・海の風景、
歴史と自然の調和、野馬追文化、流域ごとの地域性

課題

- ・文化遺産と周辺環境の一体的活用
- ・市民活動と連携した取り組み不足
- ・文化遺産の継承者、支援者の不足
- ・東日本大震災の影響

保存活用方針

- ・みんなで取り組む誇りあるふるさとづくり
- ・豊かな地域の魅力の体感
- ・地域の歴史文化に親しむ、楽しむ

保存活用のための取り組み

体で感じる文化遺産

文化遺産と周辺環境の一体的な保存活用を進める。文化遺産の本質的価値をわかりやすく伝えること、文化遺産と周辺環境が一体となった整備を進めること、様々な情報発信な文化遺産に触れる機会を創出することに取り組む。



野馬追文化の体感

南相馬市を代表する相馬野馬追をいつでも感じることができるまちづくりを進める。馬事文化や相馬野馬追に関連する文化遺産などの情報発信や、野馬追の行事に関する景観整備を進めていく。



市民と一緒に保存活用する 仕組みづくり

行政と連携した市民が担い手となった文化遺産保存活用の仕組みを構築する。ボランティアの育成のほか、文化遺産を通じた活動について相談できる窓口等を設置する。

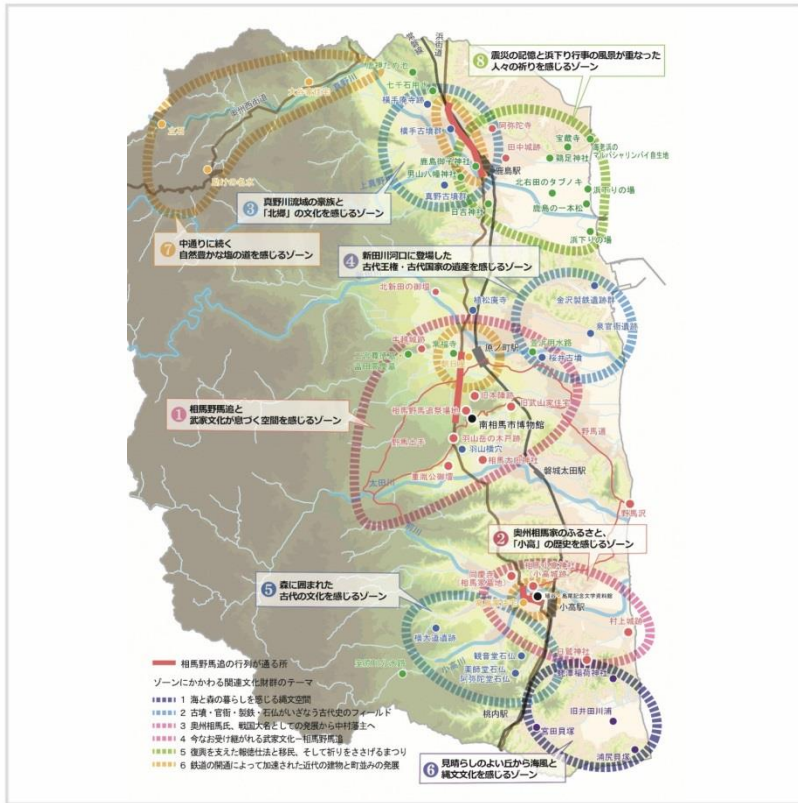


東日本大震災と福島第一原子力 発電所事故からの震災復興

祭礼や民俗芸能、文化財の清掃等の地域活動について、地域コミュニティの継承や再生につながるような支援を行う。また、震災を伝える資料を記録保存し、まちづくり、防災教育、歴史教育に活かしていく。



関連文化財群



南相馬市の歴史文化を語るストーリーとして、歴史的なつながりとテーマ性を重視し、市の取り組みや文化遺産の特性を踏まえるとともに、震災からの復興を念頭に6つの関連文化財群を設定した。市の特徴である多様な史跡や相馬野馬追のほか、様々な災害を経て現代につながる民俗芸能や用水路などの文化遺産も含めたものとし、文化遺産を活かした多方面へのまちづくりにつながるストーリーとなることに努めた。

ストーリー

- ① 海と森の暮らしを感じる縄文空間
- ② 史跡がいざなう古代史のフィールド
- ③ 奥州相馬氏、大名から中村藩主へ
- ④ 受け継がれる武家文化 野馬追
- ⑤ 復興を支えた報徳仕法、移民、祭り
- ⑥ 鉄道の開通から町並みの発展

策定後の成果（見込まれる効果）

① 市民活動との連携

策定にあたり、市民検討会を開催したことは、市民が歴史文化や文化遺産を知る機会となり、市民による文化遺産を活かしたまちづくりに取り組む契機となった。市民による歴史文化基本構想の説明会の開催や史跡や歴史的建造物を活用した市民活動なども実施されている。また、市民による文化遺産の管理や修繕等も促進が図られている。



② 新たな文化遺産の発見

策定にあたり、これまで調査が進んでいなかった分野の調査を実施した。震災を物語る資料のほか、保存すべき歴史的建造物などが確認され、新たに登録文化財への登録につながるなどの成果が得られている。特に被災地では、資料の散失や建造物の解体が進んでおり、構想に基づき幅広い視野をもって文化遺産の把握に努めていく必要がある。



③ 文化財保存活用計画策定の推進

南相馬市では現在、多くの国史跡の保存活用に取り組んでいるが、構想を策定したことにより、他の文化遺産と連携した活用や、史跡等の周辺環境を重視したより幅広い保存活用計画の策定が進められている。また、未指定文化財についても、今後の保存活用を進めていくものが掲げられ、歴史文化を活かしたまちづくりの推進が期待される。

